

第3号様式

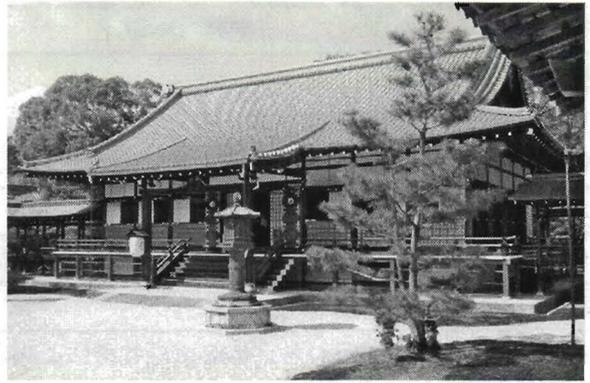
平成22年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	B	取組 名称	京都御所から京都府下の市町村に下賜された建物に関する建築史的研究
研究代表者：生命環境科学研究科 職名：教授			
研究担当者： 京都府立大学（大場 修（敬称略）） 外部分担者・協力者（矢ヶ崎善太郎、岡本 公秀、石川 祐一）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府教育庁文化財保護課、京都市文化財保護課など			
【研究活動の要約】			
<p>本研究は、近代に御所から京都府下の各所に下賜された建築群の存在に着目し、下賜が如何にして行われ、下賜建築がどのように転用され利用されたのか、その実相を把握するとともに、その事実如何なる意味や歴史性があるのかを明らかにすることを目的として取組んだ。</p> <p>大正・昭和期の両「御大礼」の際に造営された御殿群の構成を明らかにし、それらの下賜先を把握し、ヒアリング調査および現存する下賜建物の遺構について実測調査を現地で行った。調査により得られたデータより、大礼建築の下賜とその建物の転用についての特徴を検討した。現存する遺構については、大礼の下賜建物の今後の活用に向け、その基本的な考え方と方向性について検討した。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>1、大正大礼後、宗教施設への下賜過程をみると、大礼建物であることを誇示するような特別な意義は見出し難く、経済的に不振であった大正初期にあって、無償で建築材料を入手できる好機として大礼建物の下賜を願い出るといった状況がみられた。また、教育施設へ下賜されたものは、初等、中等、高等教育機関で、転用された建物に見られる「大礼建造物の下賜に対する記念性」に差がみられ、大礼の下賜建物に対する認識が教育機関において一律ではなかった。</p> <p>2、一方、昭和の大礼建物の下賜過程においては、宗教施設・教育施設ともに、大礼建物であることを誇示する特別な意義が付与され、大正期の認識とは異なっていた。両大礼の建物の下賜過程から、大礼当時の時代性が表出することを明らかにした。</p> <p>3、以上のように、大正、昭和の大礼の下賜建物は歴史的社会的意義を内包している。歴史的に重要な経緯を持つ大礼の下賜建物の遺構は、京都府下における近代和風建築群に新たな評価軸を提起する重要な建築物であり、その保存が強く望まれる。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>本調査研究の成果は、報告書に取り纏め刊行するとともに、日本建築学会において発表した。（1～4）</p> <p>1) 原戸喜代里、大場修「大正大礼における下賜建物の宗教施設への転用過程」『日本建築学会計画系論文集』2010.12報告集』2010.6</p> <p>2) 原戸喜代里、大場修「昭和大礼における御造営物の下賜過程」『日本建築学会計画系論文集』2009.3</p> <p>3) 原戸喜代里、大場修「昭和大礼における下賜建物の宗教施設における転用過程」『日本建築学会計画系論文集』2009.12</p> <p>4) 原戸喜代里、大場修「昭和大礼における下賜建物の教育施設への転用過程」『日本建築学会計画系論文集』2010.4</p>			
【お問い合わせ先】 生命環境科学部 史的住環境学研究室 教授：大場 修			
Tel: 075-703-5419 E-mail: oba@kpu.ac.jp			

参考（イメージ図、活動写真等）



大正大礼の下賜建物の遺構、円通寺・潮音殿



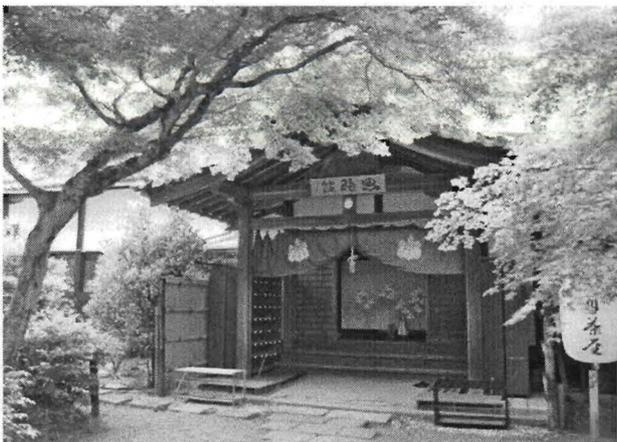
大正大礼の下賜建物の遺構、大覚寺・心経前殿



大正大礼の下賜建物の遺構、三ノ宮神社・保育所



昭和大礼の下賜建物の遺構、同志社・醇化館



昭和大礼の下賜建物の遺構、醍醐寺・恩賜館



昭和大礼の下賜建物の遺構、乙訓寺・客殿